



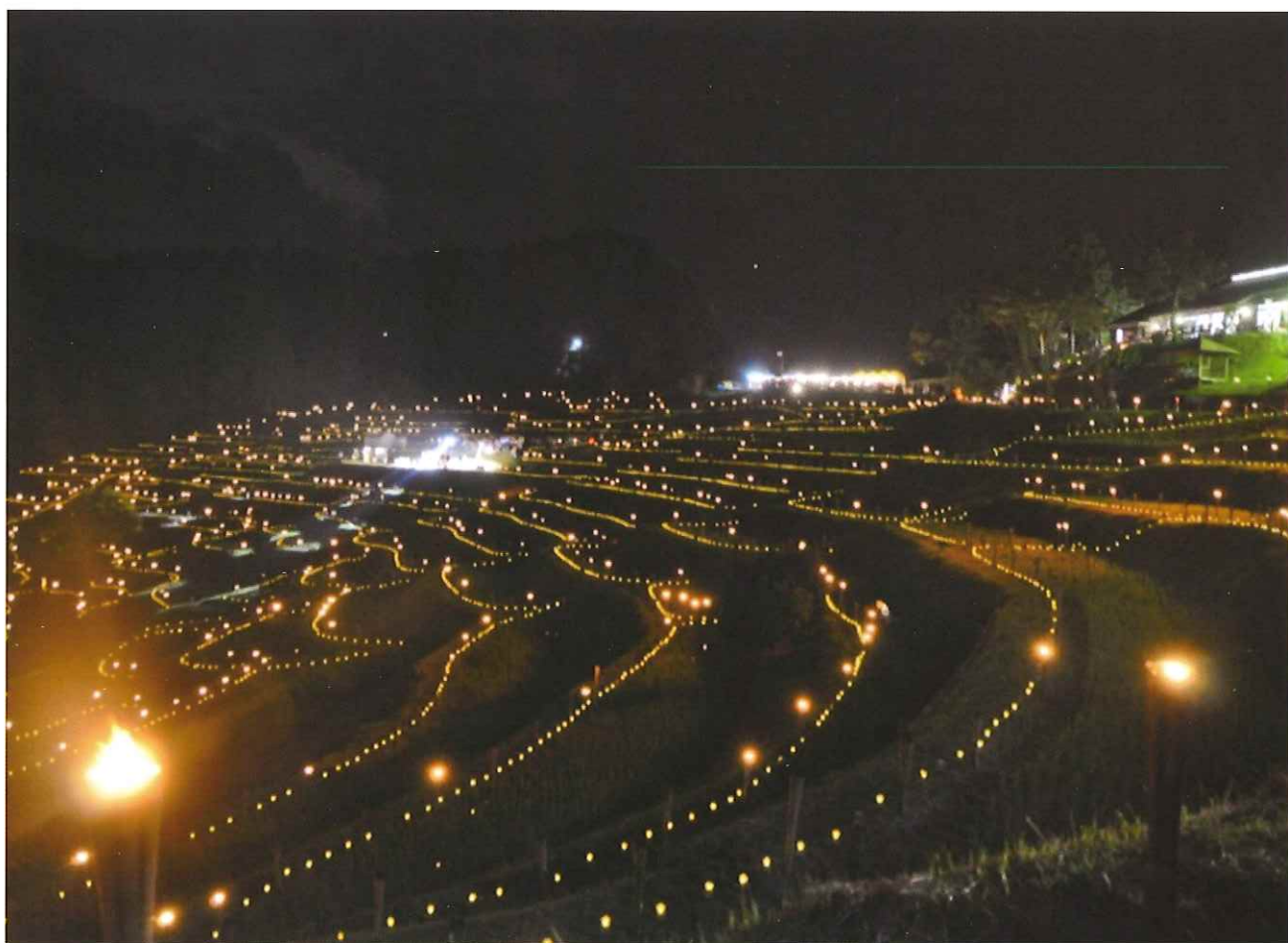
# 消防千葉

**2016 No.549** 平成28年11・12月号

---

平成28年12月1日 編集兼発行人  
千葉市中央区仁戸名町666番地2 千葉県消防会館内  
公益財団法人千葉県消防協会会長 石橋 毅  
TEL043(263)9885  
郵便番号 260-0801  
ホームページ <http://business4.plala.or.jp/chisyo/>  
メールアドレス [chisyokai@bz04.plala.or.jp](mailto:chisyokai@bz04.plala.or.jp)

---



大山千枚田 一棚田の夜祭り - (鴨川市) 安房支部

## 巻 頭 言

## 「市民と消防の連携」

富津市消防本部 消防長 小柴 登



日本では、1年に約1,000回以上の有感地震が起きていることから、地震大国と呼ばれていることはご承知のとおりです。いつ・何処で・どの程度の地震が発生するかを予知できれば、被害を軽減することが可能ですが、残念ながら地震を予知する技術は確立されておらず、大地震が起きると被害は甚大となります。

富津市は、山間部や河川が多く南北に約40キロメートルに及ぶ海岸線があり、大規模地震では、沿岸部の津波被害や山間部の土砂崩れなど、甚大な被害が懸念されます。

過去、1703年の元禄地震では、約5メートルの津波が押し寄せ多くの人命や建物の倒壊など、大きな被害があったと記録されております。

近年発生した災害は、平成元年と平成25年に短時間の降雨が400ミリメートル以上となり、土砂災害や洪水で大きな被害となりました。また、平成23年の東日本大震災では、津波により漁業施設を中心に被害が発生しました。

この東日本大震災を契機に、「自らの命は自ら守る」とする自助、「自分たちのまちは地域のみみんなで守る」とする共助の防火意識が市民の間で高まり、「自主防災組織」の設立や防災に関する講座の依頼、防災対策についての問合せが増加しました。

そのため、当市では、被害を少しでも軽減するため、各地域の特性に即した防災訓練の開催や津波、土砂災害ハザードマップを作成し、市民に配布して日頃から「いざという時の備えについて」を周知しており、また、地域防災計画も定期的に修正し、防災対策を万全に期すよう努めております。

一方、地域を守るために必要不可欠である消防団は、全国的に消防団員が減少傾向にあり、当市においても人口の減少や就業構造の変化に加えて「消防団活動は忙しい」「消防団は体力が必要」などのイメージも持たれ、団員数が徐々に減少していることから、団員の確保が切実な問題となっております。

そのため、消防団員を確保する一つとして、地域住民に消防団の重要性や日頃の取組みを理解してもらうため、消防団の応急手当普及員を中心に管轄する地域住民に対して救急講習や消火器の取扱いの説明などを、本年度から担当しております。このことは、消防団活動の理解や地域住民との連携強化につながり、併せて消防団が地域防災のリーダーとして確立するなど、地域の防災力が向上いたします。

また、平成25年4月に竣工した新消防庁舎では、防災拠点の充実強化に加え、市民に対して防災に関する様々な教養訓練が可能となりました。今後は、この施設を活用して市民の安全安心のため、消防署、消防団、地域住民が連携する訓練を実施して災害による被害を少しでも軽減することを目標に消防業務を推進してまいります。



## 第25回全国消防操法大会の開催

平成28年10月14日（金）午前9時から第25回全国消防操法大会が長野県長野市の南長野運動公園（長野オリンピックスタジアム）において、総務省消防庁及び公益財団法人日本消防協会の主催により開催されました。



当日は、秋晴れの中、全国各地からそれぞれ厳しい戦いを勝ちぬいてきた、ポンプ車の部25都府県25チーム、小型ポンプの部22道府県22チームが参加しました。



9時からの選手団入場、開会宣言、国旗掲揚に続き、24回大会で優勝した長崎県壱岐市消防団（ポンプ車の部）、岡山県岡山市消防団（小型ポンプの部）から優勝旗の返還の後、青木信之消防庁長官及び秋本日本消防協会長から挨拶がありました。

その後、選手宣誓があり、来賓の祝辞の後、10時から操法が開始されました。

千葉県からは、7月26日に行われた千葉県消防操法大会にポンプ車の部で優勝した南房総市消防団（君塚弘和団長）が出場しました。

スタンドの上には各チームの幟が立ち並び、真新しい南房総市消防団の幟がはためいていました。スタンド及び一般席には地元南房総市からバスに乗って、大勢の応援団が来場して、演技を見守っていました。





今回出場した南房総市消防団（指揮者 石井洋一、1番員 石井 裕、2番員 小鷹直貴、3番員 粕谷浩樹、4番員 渡辺圭介、補助員 水寫章裕）は、連日の厳しい訓練に耐え抜いた、精鋭揃いです。

演技が開始すると、さすがに各県の代表だけあって、きびきびとした演技を披露していました。



南房総市消防団は、ポンプ車の部開始から13番目に、大きな声援のなか堂々と演技を行いました。4時には審査長から、ポンプ車の部の優勝は島根県松江市消防団、小型ポンプの部の優勝は三重県伊賀市消防団と審査結果が発表されました。

南房総市消防団は、団体の部では残念ながら入賞を逸しましたが、個人の部では、最優秀2番員を小鷹直貴が獲得しました。

その後、表彰式がおこなわれ、第25回全国消防操法大会は盛会の内に終了しました。



消防操法大会会場の隣接地のオリンピックスタジアム一塁側スタンドテラスでは、「地域を守る消防防災展」・「消防団の交流物産展」が開催され、最新の消防防災機器及びシステム等の展示や長野市内、長野県内及び全国各地の特産物の販売などが行われました。



## 第52回 消防殉職者慰霊祭の開催

平成28年10月20日(木)に「第52回消防殉職者慰霊祭」が、千葉県、公益財団法人日本消防協会の後援により、千葉県消防学校屋外訓練場慰霊碑前において、ご遺族、ご来賓、消防関係者など約300人のご参列をいただき、午前10時より、厳粛に執り行われました。



小田山副会長の開会のことば



石橋協会長の式辞

この慰霊祭は郷土防災の使命を果たして、その職に殉じた御霊を慰め、あわせて消防士気の高揚と防災思想の普及を図るため毎年実施しているもので、今年で52回目となります。

合祀されている殉職者は、消防組時代29柱、警防団時代11柱、消防本部・消防団時代の49柱、そして消防協力者6柱、あわせて95柱となっております。

式典は小田山消防協会副会長の開会のことばで始まり、慰霊碑に拝礼の後、習志野市消防音楽隊の演奏による国歌斉唱が行われ、司会者の案内により消防殉職者95柱の御霊に対し参列者全員により黙とうをささげました。

その後、石橋 毅千葉県消防協会長から、「我々消防人一同は、御霊のご遺訓を受け継ぎ、心を新たに団結を強め、地域防災に力を尽くし、安全で安心な社会を実現するため精進努力することを誓います。」と式辞を述べられました。

次に千葉県知事代理として出席された高橋 渡千葉県副知事から「皆様が身をもって示された崇高な志は、今もなお三万四千余の消防人に脈々と受け継がれ、ご遺族の胸中にも大きな誇りとして生き続けていることと存じます。県としましても、防災関係機関と一致団結し、決意を新たに防災対策の一層の充実に努め、災害に強い千葉県づくりを進めていくことを、皆様の前でお誓いいたします」と知事の追悼のことばがささげられました。



高橋副知事の追悼の言葉



その後、木名瀬千葉県議会副議長及び県内市長会会長の志賀東金市長及び県内町村会会長岩田東庄町長から追悼のことばがあり、最後に、倉田最高名誉顧問からの追悼のメッセージが披露されました。

続いて関係者、遺族の方々から、消防殉職者慰霊碑に献花が行われました。

最後に、遺族を代表して加藤金司様から「これからも故人の遺志を継いで、力強く生きていく所存でございます。」とお礼の言葉及び石橋消防協会長からのお礼の言葉が述べられ、椎名消防協会副会長の閉式のことばにより、消防殉職者慰霊祭を滞りなく終了しました。



木名瀬県議会副議長の追悼の言葉



遺族の献花の様子



お礼のことば（加藤遺族代表）



お礼のことば（石橋協会長）



椎名副会長の閉式のことば



## 平成28年度関東地区女性(婦人)防火クラブ 連絡協議会幹部地域研修会の開催

平成28年10月19日(水) 20日(木) 茨城県水戸市のホテルテラスザガーデン水戸において1都6県からおよそ70名が出席し、関東地区女性(婦人)防火クラブ連絡協議会幹部地域研修会が開催されました。

まず、主催者である久慈茨城県婦人防火クラブ連絡協議会長及び篠原茨城県生活環境部消防安全課長、佐野(一財)日本防火・防災協会理事長からの挨拶があり研修会に進みました。



久慈茨城県会長 挨拶



講演する消防庁小比木室長



活動事例を発表する竹内会長

最初に総務省消防庁防災課地域防災室長小比木哲也氏から「女性(婦人)防火クラブと地域防災力の充実強化」と題しての講話があり、その後、兵庫県立大学木村准教授から「21世紀を生き抜くための防災心理学入門」の講演が行われました。その後、竹内会長はじめ各都県会長等による活動事例の発表が行われました。

20日(木)には、「弘道館」「偕楽園」を視察しました。

千葉県からは竹内会長外2名が参加しました。





# 第35回全国消防殉職者慰霊祭

平成28年9月29日(木)、「第35回全国消防殉職者慰霊祭」が日本消防会館ニッショウホールで殉職者遺族、各県の消防協会関係者等の出席により執り行われました。

昭和23年の自治体消防発足以来、旺盛な郷土愛護と崇高な消防精神に燃え、全国の消防職団員による地域に根ざした防災活動の展開のなかで、残念なことに毎年消防殉職者が発生しており、その御霊は新たに合祀した4柱を加えて5,692柱を数えております。

式では秋本敏文日本消防協会長の式辞、内閣総理大臣(代理萩生田内閣官房副長官) 総務大臣(代理原田総務副大臣) 及び遺族代表の追悼のことば、参列者の皆様の献花が行われた後、江戸消防記念会による鎮魂の歌(木遣り)が披露されました。

千葉県からは遺族の方6名と佐倉市、山武市及び流山市の職員並びに千葉県消防協会会長など9名が参加しました。



式辞を述べる秋本日本消防協会長



内閣総理大臣(代理萩生田内閣官房副長官)の追悼の言葉



総務大臣(代理原田総務副大臣)の追悼の言葉



遺族による献花



(一社)江戸消防記念会による鎮魂の歌(木遣り)



# わが町の消防団 ① 鎌ヶ谷市消防団

鎌ヶ谷市は千葉県の北西部、北総台地のなだらかな緑の大地の上に広がる総面積21.08平方キロメートルの都市です。

市内には、アーバンパークライン（東武野田線）・新京成電鉄・北総鉄道・成田スカイアクセスの鉄道4線と道路網が発達しており、都心から25km圏内にあることから首都近郊の住宅都市として発展してきました。

鎌ヶ谷市消防団は、川上英明消防団長以下160人で、1団本部、女性部、8分団で構成されており、消防ポンプ自動車8台を保有しています。団員の6割は地元で農業または自営業を営んでおり、有事の際にはすぐさま多くの団員が駆けつけてくれるという安心感があります。「自分たちのまちは自分たちが守る」という郷土愛護の精神から、生業のかたわら、火災の消火活動はもとより、風水害など様々な災害時にも救助・救出、避難誘導など地域防災の担い手として活動し、地域住民の生命・財産を守るため日頃から熱心に消防団活動に取り組んでいます。



平成27年度には、初めて女性消防団員11名を採用し、女性らしい感性を取り入れ住民の身近に寄り添い、地域住民の安全安心を確保することを目的に女性部が発足しました。女性部の主な活動は、応急手当指導員の資格を取得し、市民を対象とした普通救命講習の指導員として、また自治会などの防災訓練に参加し消火器の取扱いや煙体験ハウスの説明など幅広い活動をしています。

各分団は、年間計画に基づいて新入団員訓練、消防操法訓練及び年3回消防団全体の合同訓練を実施し、合同訓練では実践的な単独、中継による放水訓練を行い、普通救命講習、住民指導を目的とした応急処置の指導訓練に加え、各分団で消防技術向上のため、自ら企画した訓練をそれぞれ実施しています。

また、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が公布されたことを受け、平成27年度新基準の活動服を全団員へ貸与したほか、耐切創性手袋、携帯用小型トランシーバーの導入、更には平成29年度から機能性デザイン性を向上した防火衣を導入していく予定で装備品の充実強化も図ってまいります。

近年では、他市同様に新入団員の確保が難しくなっており、今年度は条例定数である177人を下回っている状況ですが、団員は地域防災の発展のため、地域に密着した活動に尽力し、地域住民の安全、安心を目指して日々邁進しています。今後とも、地域住民の支援・協力を受け消防団組織を充実強化し、市民の防災意識の高揚を図りながら、災害に強い鎌ヶ谷市を目指し活動していきます。





## わが町の消防団 ② 袖ヶ浦市消防団

袖ヶ浦市は東京湾沿いの千葉県ほぼ中央（東経139度58分、北緯35度26分）に位置し、面積94.93平方キロメートル、東西14キロメートル、南北13.5キロメートルの羽を広げた蝶型をなし、平坦な丘陵地帯です。気候は総じて温暖で、自然環境に恵まれており、臨海部では昭和40年代に入り、国の工業化政策により、海岸線が埋め立てられ現在約160の企業が操業し、今日では京葉工業地帯の一翼を担う産業都市へと大きく変貌しています。また内陸部では計画的な宅地造成が行われ、農業・工業及び住宅の街へと移り変わっております。



袖ヶ浦市消防団は、吉田 政幸団長以下442名（1団本部・5方面隊19分団、女性消防団員16名、OB団員40名）の団員で構成され、ポンプ自動車（CD-1型）19台に小型動力ポンプを積載さ



せ配置、消防団詰所も計画的に新築、改修し各地域における防災拠点の充実を図っており「自分たちの町は自分たちで守る」という使命感を胸に、日夜を問わず熱心な活動を続けております。

年間の行事・活動と致しましては、年度初めに新入団員を対象に、消防団長から消防団員の心構え、消防団の役割、重要性について学ぶ講習会を開くとともに、規律訓練によって消防団員に欠かせない厳正な規律や団結力等の習得をしております。また消防・防災に関する知識や技術の向上を図るため、機関講習、救急講習を定期的実施、講師を招いての安全管理セミナー、操法大会及び早出し競技会を隔年で開催しております。

「中核法」施行以降、新たに本市救助隊員を指導員として救出訓練を取り入れ、いつ起こるかも知れない大規模災害を想定した、CSRM訓練や分団に配備した救助資器材の取扱い訓練を実施しております。その他にも年一回開催される消防フェスタに参加し放水体験や消防団車両の乗車体験、女性消防団員による防災紙芝居など各種コーナーを設け、市民の方々に消防団は地域に密着した組織であることをアピールし理解を深めていただき、団員確保に繋がるよう努めております。

さらに本年6月から新たに団員による高齢者宅への住宅用火災警報器取付け補助事業を開始し、普及率向上を目指し尽力しているところです。

今後も郷土愛護精神のもと、安全、安心なまちづくりに貢献すべく、関係機関と協力しながら団員一丸となって共助の要としての誇りを持ち、地域防災力向上に繋がる活動を積極的に進めてまいります。





# 東 西 南 北

## 東西南北 自動車事故を想定した救助訓練 船橋市北消防署

船橋市北消防署では、6月26日(日)、7月3日(日)、10日(日)に、自動車事故に対する安全・確実・迅速な救助方法を習得することを目的とし、三咲特別救助隊と東高度救助隊が合同訓練を行いました。

この訓練は毎年、市内の事業所から訓練場所及び廃棄車両を提供して頂き、自動車ガラスの切断・変形したドアの開放・ボディの切断等、新規救助資器材の習熟も含め災害対応能力の向上を目指しております。



## 東西南北 救急技術の更なる向上を目指して 君津市消防本部

君津市消防本部は、7月13日と14日の両日、若手・中堅の救急救命士を対象とした救急シミュレーション訓練を実施した。この訓練は、年々増加する救急出動に伴い、救急隊の高度な技術と知識を習得するため、指導救命士養成研修を修了した救命士を中心とした教育体制の構築を目的として行うもので、薬剤投与、処置拡大2行為、重症外傷等の想定訓練を実施した。訓練終了後の検討会では、指導者による評価を受け技術、知識の向上を図ることができた。今後も指導救命士の養成を図りつつ、更なる向上を目指して行く。



## 東西南北 河川等の水難事故を想定した舟艇訓練を実施 柏市消防局沼南消防署

柏市消防局沼南消防署では、平成28年7月14日(木)に手賀沼で河川等の水難事故を想定した舟艇訓練を実施しました。

指揮隊、地上支援隊、救出隊、救急隊及び安全管理隊に分かれ、人命救助を最優先とした迅速、的確な活動を目標とし、災害活動時における指揮能力向上及び部隊活動の連携強化を図ることができました。





## 東西南北 スマイル festival ちばで消防コーナーを出展 千葉県消防局

千葉県消防局では、平成 28 年 7 月 17 日・18 日の両日、JR 京葉線海浜幕張駅前広場で開催された千葉テレビ開局 45 周年を記念したイベント、「スマイルフェスティバルちば」で、「10 年たったら取り替える～住宅用火災警報器～」コーナーや、「AED」を使った応急手当体験コーナーを出展し、併せて消防団員による「加入促進」の広報活動を実施しました。

この PR 活動では住宅用火災警報器を設置してから 10 年経過したものは、電池切れなどで感知しない危険性があるため、新しいものに取り換える必要があることを PR したり、駅前広場を行き交う親子連れに、子ども消防服を着ての写真撮影や、応急手当をはじめとした体験に積極的に参加してもらいました。

さらに消防団に興味を持った参加者も多く、この PR 活動が地域の防災意識の向上につながるきっかけとなりました。



## 東西南北 消防協力者へ感謝状贈呈 船橋市北消防署

船橋市北消防署では、管内で発生した救急事案において、人命救助を行った方々に対し、平成 28 年 7 月 12 日（火）勇気ある行動と多大な功績を讃え、感謝状を贈呈いたしました。

駅ホームで男性が突然倒れ、心肺停止状態に陥ってしまったところ、連携協力し、素早く 119 番通報と AED の要請をするとともに胸骨圧迫を行いました。

さらに、同駅内に設置された AED を使用した心肺蘇生法を実施し、救急隊員が到着するまでの間、適切な処置を施すことにより尊い命が救われ、この男性は無事に社会復帰することができました。

消防協力者の鈴木恵子様（前列中央）は感謝状贈呈式後、「救命講習とおり動けたので、助けることが出来ました。」と笑顔で当時は振り返っておりました。



## 東西南北 住宅用火災警報器設置義務化 10 年 オーロラビジョンでの広報 千葉県消防局

千葉県消防局では、平成 28 年 7 月 24 日（日）サッカー試合会場のフクダ電子アリーナのオーロラビジョンで、住宅用火災警報器本体の交換を推奨する動画を放映しました。

動画は（一社）日本火災報知機工業会が作成したもので、最後に千葉県消防局のテロップを入れていただきました。PR キャラクターの「とりカエル」がとてもかわいい動画ですね。と観戦者からの声もあり、今後も放映可能な試合で流して頂けます。

これからも、住宅用火災警報器設置義務化 10 年広報キャンペーンを積極的に広報していきます。





## 東西南北 広報教育「記者の目から見た消防」を実施 千葉市消防局

千葉市消防局では、平成 28 年 8 月 18 日（木）テレビ記者、新聞記者、消防機関誌編集者に講師をお願いして広報教育を実施し、局内所属職員及び県内消防局（本部）から 153 名が受講しました。

記者の方から見た消防のイメージ、記者から聞きたい災害「火災・救急」のこと、記者が聞きたい情報とは何か、記者が目につく発表（記者宛資料）とはどんなものか等、報道対応強化を主目的に記者からの視点を学ぼうと、今回の教育を開催しました。

各メディア講師からは、「消防と報道は「同志」、時には厳しい事も記事になり、放映することもあるが、消防の取組みを応援もする。」「活動情報開示やメディア露出に努めよう。」「広報に尽力しているか」、「報道発表資料をさらに工夫して欲しい事」などのアドバイスを受け、大変有意義な会になりました。



## 東西南北 火災原因調査技術研修を実施 松戸市消防局

松戸市消防局第三方面本部予防担当室は、平成 28 年 7 月中に計 6 回、各消防署にて、消防署の調査員を対象とした、火災原因調査技術研修を実施しました。

この研修は、各消防署を耐火 2 階又は 3 階建て複合用途建築物と想定し、飲食店内又は休憩室より出火、当該室内の



床面積約 0.4㎡を焼損した建物ほや火災とし、電気又はたばこに起因する火災の原因調査要領の確認を行いました。本研修では、調査班長の指揮のもと、情報収集、写真撮影、図面作成を行い、出火箇所及び火源を検討したうえで出火原因を判定しました。



## 東西南北 JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2016 千葉市消防局

平成 28 年 8 月 25 日（木）～ 27 日（土）（一般公開日は 26・27 日）、幕張メッセ国際展示場で開かれた「JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2016」に、住宅防火フェアのブースを出展しました。

防災品の燃焼比較実験、感震ブレーカーのデモ展示、ちびっこ消防服体験コーナーなど、親子で楽しみながら『我が家の防火・防災対策』について学べるブースとなりました。

【我が家の防火・防災対策コーナーの様子】





# 日々の動き

防災危機管理部／消防協会 共同編集

## 平成28年11・12月

- 11月2日 消防・防災活動に関する出前講座（市原市）
- 5日 学園祭での学生消防団PR活動（千葉市）
- 8日 首都圏中央連絡道建設期成同盟県民会議（千葉市）
- 13日 学園祭での学生消防団PR活動（銚子市）
- 17～18日 関東甲信地区事務局長会議（群馬県）
- 20日 南房総市消防団全国操法大会出場結果報告会（南房総市）
- 26～27日 消防団員指導員研修会（消防学校）
- 30日 女性消防団員活性化シンポジウム（千葉市）
- 12月16日 千葉県消防協会コンプライアンス委員会（千葉市）
- 16日 千葉県消防協会臨時理事会（千葉市）



**平成28年度 全国統一防火標語**  
**「消しましょう その火その時 その場所で」**

平成28年  
**冬の交通安全運動**  
 12月10日(土)から12月19日(月)  
 スローガン  
**～ その酒で 失う信頼 家族の未来 ～**

### <表紙の説明>

大山千枚田 ー 棚田の夜祭りー（鴨川市）安房支部

大山千枚田は約4ヘクタールの斜面に東西600mにわたって375枚の棚田が連なっています。農林水産省の日本の棚田百選に認定されており、文化庁の文化的景観の保存・活用事業の対象地域にもなっています。2010年9月27日には、天皇皇后両陛下がご視察されました。

毎年秋には、「棚田の夜祭り」と題し、3,000本の松明と10,000本のLEDキャンドルが照らし出すライトアップイベントが開催されます。

